

# 「第9回産業日本語研究会・シンポジウム」の開催について

平成 29 年 12 月

## 産業日本語研究会世話人会

顧問：長尾 眞	(京都大学名誉教授)
代表：井佐原 均	(豊橋技術科学大学)
委員：辻井 潤一	(産業技術総合研究所)
橋田 浩一	(東京大学)
隅田 英一郎	(情報通信研究機構)
柏野 和佳子	(国立国語研究所)
潮田 明	(産業技術総合研究所)
横井 巨人	(日本特許情報機構)

## 開催趣旨：

**ユニバーサルコミュニケーションに資する産業日本語に向けて  
～グローバル化の波を越え、人工知能の活用を促進していくために～**

産業日本語研究会では、産業・科学技術情報の発信力強化や知的生産性の向上を通じて、わが国産業界全体の国際競争力の強化に資するような、人間が理解しやすく機械が処理しやすい「産業日本語」のあり方を研究しています。この「産業日本語」は、明瞭な日本語文の作成と高品質な翻訳文の低コスト作成に寄与することなどを目的としています。

情報を効率的・効果的に機械処理することで、言語等の違いを乗り越え、全ての人々が容易に情報の伝達・共有を可能とするユニバーサルコミュニケーション技術が求められております。そこで、今回のシンポジウムでは、グローバル化と人工知能という2つの観点から、ユニバーサルコミュニケーションに資する日本語を議論する場を提供したいと考えています。

海外進出や顧客の多国籍化などによる企業活動のグローバル化にともない、国内外への産業・科学技術情報の発信先に応じた情報発信が進められております。前者の観点からは、日本語を母語としない者も含めた様々なバックグラウンドを有する者との円滑なコミュニケーションのためにも、思考及び情報伝達の基盤である日本語を見直す必要があります。

後者の観点からは、ニューラルネットワークをはじめとする人工知能技術をいかに活用するかが重要となります。多言語での情報発信や文章データ処理の高度化など、様々な場面での活用が想定されますが、人工知能は万能ではなく、出力される情報は入力データの質に影響を受けます。そのため、入力データとなる日本語のあり方を見直す必要があります。

このような背景のもと、グローバル化が一層進み、人工知能技術が実用化される時代において、求められる日本語スキルや産業・科学技術文章データ活用を考えるうえで示唆に富む最新の取り組みや研究についてご紹介していただきます。

本シンポジウムが、産業日本語の更なる普及につながり、我が国産業界に大いに貢献できる機会になると期待しております。産業界、学术界などからの、多くの皆さまのご参加をお待ちしております。